

会 議 録

会 議 名	令和5年度文化によるまちづくり推進委員会部会 (B班)	
開 催 日 時	令和5年10月2日 (月) 18時～19時30分	
開 催 場 所	市役所3階 小会議室	
出 席 者	岸田 茂、東原 秀一、脇本 忠典、塩田 賢二	委 員 数 5人 出席者数 4人
欠 席 者	伊藤 久美子	欠席者数 1人
事務担当課 及び職員	協創部文化スポーツ推進課 文化スポーツ推進課：原田課長、別府	
	事務局が作成したアンケート (案) について	
班長	事務局作成のアンケート (案) について、御意見があれば。	
委員	配布資料の委員からのまとめはアンケートに反映されているのか。	
事務局	まだ反映しておりません。	
委員	対象者小学生とあるが、教師が一つずつ説明しても回答するのが難しい のでないか。	
事務局	おっしゃるとおり。	
委員	今後アンケートを何に生かすかで、対象者が変わってくる。	
委員長	文化に足を運ばない原因を探る。もともと文化によるまちづくりの推進 をする委員であって、事務局の監視をするものではない。	
委員	小学生は省いて、保護者だけで良いのではないか。	
事務局	今回の対象は小学生の保護者、中学生、中学生の保護者に絞ります。	
班長	アンケートの内容についてはどうか。	
委員	内容については全体的に網羅されているため良いと思う。細かいことだ が、冒頭の一行目の文化芸術によるまちづくりを強調する意味で、「」で くくってはどうか。5や9の複数回答可とあるが、回答欄の数が足りない のではないか。	

事務局	電子で行う予定ですので、実際には必要な数ほど回答欄を設けている。
委員	1 3は2つまで選ぶようになっているが、重要な部分であるのもっと選べるようにしてはどうか。
班長	様々な意見があると思うが、仮にたくさん選べてしまうと、集計の際に結果に差が出てこないのでは、絞るとするのはメリットがある。
委員	確かに2つは少ないのでは。
委員	重要だと思うことから番号をつけていくのはどうか。
委員長	それは面白い。ベスト5くらいまで。
班長	1 6項目ありますが、それが多いのか少ないのかわかりませんが。他に何かあれば。
委員長	個別に事務局に伝えているものもあると思うので、事務局でまた集約していただいたものを提示していただく。
事務局	このB班が一番初めになります。来週残りの2班がありますので、それを踏まえて後日御報告させていただきます。
班長	これは紙ベースか。
事務局	市内の小中学校と理科大の方は、電子申請で行う予定。高校生は紙媒体で、電子申請も行うか、先生方に確認する。予算の関係で200名程度しか予定していないが、無作為の市民についても紙媒体で送付し、電子申請も可とする。イベント時も同様となる。
委員	無作為の20～40代は小・中学校の保護者と被るのではないか。
事務局	無作為なので被る可能性はある。
委員	保護者が20～40代が多いため、50代以上にした方が良いのでは。
委員長	50～70代はどうか。

事務局	そのように、調整する。
班長	細かい話になるが、小学生が入らないのであれば、10代以下の「以下」が不要となるのでは。
事務局	「以下」を取るようにする。
班長	部会の意見をもとに、来週のA班、C班を終えて、10月下旬にアンケート配布になるのか。
事務局	今回のB班の意見はお伝えした上で、賛同を得られれば取り入れていくようにする。
委員	5の知っている（行ったことがある）の箇所が、わかりにくい。例えば、5-6のすべて知っている（行ったことがある）は、すべて知っていて行ったことがある人が回答するのか、知っているが行ったことがない人が回答するのかわかりづらい。
班長	4の質問と一緒にして、イベントごとに知っているだけで行ったことがないのか、実際に行ったことがあるのかというところをはっきりさせた方がよいのではないか。
事務局	6の回答のように、知っている・知っていないがあり、右側に行ったことがある・行ったことがないというように修正します。
委員	不二輸送機ホールで文化に関わるイベントというのは、この5つしかないのか。
事務局	市の主催事業ではそうです。
事務局	これ以外に、文化協会がされているイベントや、NHKや宝くじ公演事業に応募して当たれば年度に行うものもある。
委員長	5-6の前に「その他」を入れてはどうか。
事務局	そのようにする。
委員	この市主催事業は何年も続いているのか。

事務局	そうです。
委員長	特に有名なピアノマラソンや、アートのたまたまはこは、行ったことがあるという人が多いと思う。これが5パーセントなどという数字が出るのを恐れている。この数字が低いと抜本的な問題になってくる。50パーセントは欲しい。（「50パーセントは難しいと思う。」という声あり）
事務局	とりあえず結果を見てみてから。
委員長	非常に楽しみにしている。
班長	6の行ったことがある・行ったことがない・わからない、覚えていないは必要か。回数だけで良いのではないか。
事務局	そのとおりである。
委員	8はいらないのではないか。9に含めてはどうか。
委員長	文殊の知恵ですね。
班長	来週以降も他の班から出るでしょうし、今日以降またアンケートについて何かありましたら事務局の方に御意見を言っていていただいて。あとは何かありましたか。
事務局	フリートークです。
委員	11月8日まで、主催事業に何があるのか。
事務局	11月8日は学校関係の締切日で、アンケート自体は、少なくとも年内まではイベント時に配ります。
委員	これは、無制限で。
事務局	そうです。
事務局	前回の委員会で、部会の中で「山陽小野田市の文化とは何か」について話したいという御意見がございましたので、今回こういう場を設けました。どうしたら文化イベントに足を運んでもらえるようになるのかな

	ど。
事務局	それと皆さんに、前期行動計画のP8にある、担い手の育成・若手芸術家の活動支援というところと、芸術振興に資する活動に対する支援の実施というのが項目として上がっているが、それを具体的に何かイメージされているものが皆さんの中であればお伺いしたい。市としても補助金ということで予算を取って行きたいが、具体的なイメージができていないため、皆さんの意見を参考にしてより具体化していきたいため、協議していただきたい。
班長	市でも、ガラス未来館に作家の先生に来ていただいたり、コンテストをしているとは思いますが、現実味はないかもしれないが、理想は芸術家の村のようなものがあって市民とも交流があるような、他の自治体がそういう取組をしていた記憶がある。
委員	宮崎県の綾町でガラスの工房があり、観光地になっている。
委員長	今の話は、山陽小野田市ですでにやっている。ガラス未来館そのものが、体験教室を相当な人数がやっている。現実問題一番多いのではないか。村というか焼野海岸がそういう役割である。
委員	焼野海岸を充実させたい。
班長	現在もいろいろやられていると思うが、今以上に活発になってくると良い。交通の問題等課題はあると思うが。
委員	ガラス未来館はかなり体験者数がありますよね。
事務局	年間5,000人以上です。
委員長	年間5,000人以上は半端な数字ではない。よそにひけを取らない。私の方から皆さんにお聞きしたいのは「文化によるまちづくり」とあるが、皆さんの中での「文化」というイメージをお聞きしたい。
委員	かなり幅が広い。歴史から考えると、いろいろある。今我々がやろうとしているのは、芸術であり、絵画や音楽、工芸に目が向いているように思う。
委員長	司馬遼太郎が、文化と文明の定義をしている。司馬遼太郎曰く、文化と

	<p>は固有の民族が共通して持っている文化。文明とは、他民族が調整をしながら共有するものだと一石を投じている。わかりやすい例えだと思う。</p>
委員	<p>そういう意味では、文化というのは祭りも含めたものになる。能なども。</p>
委員長	<p>祭りというのが一番大きい。まちの誇りというのがあるのとないのでは違う。祭りと文化は一緒の目で見ないといけないと思う。</p>
委員	<p>そういう意味では文化協会は百何十団体を統一されているが、山陽小野田市は随分文化があるのではないかと思う。</p>
委員長	<p>文化協会の平均年齢はほぼ80歳である。ここまで放置したツケが、私も含めて反省するところではあるが、一番大きい問題はお金がない。お金がない中で、ボランティアでできるのが65歳以上の、年金だけでやっていける人しかあり得ない。必然的に平均年齢が高くなり、先がない。そこで考えたのが、他からお金を持ってくる方法である。ふるさと納税（ふるさとチョイスガバメントクラウドファンディングのこと）で、10万円寄附しても100万円寄附しても個人負担2,000円である。個人負担2,000円でなんとかしたいというのが趣旨である。若者が会員にいないため、チケットは4,000円であるが、会員は2,000円で購入できるというようなメリットを増やし、若者の会員を増やしたい。年に2回あったら間違いなく得である。目に見えたお徳感を出してあげないと会員数は増えないと考えている。2,000円払って、チケット代は4,000円なので損はない。</p>
委員	<p>以前から言われている財団化というのはどうなんですか。</p>
委員長	<p>財団はお金が高い。NPOという中間のようなものがあり、文化協会及びスポーツの方で総合型地域スポーツクラブがあるが、それが一緒になってNPO化が着々と進んでいる。NPOなしにはこういうことができない。進化している。若返りとみんな言うが、具体的な策がないため、こういうことをいうのだと思う。</p>
委員	<p>担い手の問題はどこでもある。みんな高齢化し、若者の関心がない。</p>
委員長	<p>市が始めた協創事業という発想は大賛成。市民が納税している所得税は国に入る。税金の8パーセントである2～3億をふるさと納税で使える</p>

	チャンスが市全体の予算である。これを皆でやっていきたい。なんとかPRしていきたい。
委員	学校の立場からいうと、部活動改革というのが進みつつあり、運動の方はわりとしっかりした組織があっでできていくと思うが、問題は吹奏楽や美術部に入っている子達である。部活動がなくなった時に、文化芸術活動に何か仕掛けをする必要があるのではないか。
委員長	言われるとおりである。NPOをやろうとする背景がその問題である。要するに、スポーツと文化が一緒になって一つのプラットフォームを作る。学校をまたがった子ども達のサポートというのは緊急に必要となり、今から準備をしておこうと。特に吹奏楽部や合唱部など。実は私は現在須恵小学校で吹奏楽を教えているが、人がいないため今年でおしまいになる。須恵小学校でそういう状況である。そういう子達を集めて教えていきたい。それには資金が必要となる。市民が2,000円ずつ出せばすぐ可能になる。
委員	そうでもしないと、小さい頃から芸術に携わる機会が授業以外になくなるというのはあってはならないことである。子ども達に選択肢を与えつつ、10年後、20年後にここにまた戻ってくるような仕組みを若い世代に作っていく必要がある。
委員長	文化協会や総合型地域スポーツクラブが基本になり、受け皿になろうと。来年の4月から市内在住の女性で、現在77歳、日本で2番目に水泳の永久ライセンスを取った重永先生がいるが、49年間ボランティアで水泳の指導をされている。少ない時で200人、多いときで500人毎年指導されている。通年で指導をされていて、阿知須や菊川の温水プールに連れて行っている。ここをなんとかしたい。4月から重永水泳教室も申請します。そのお金を入れると、あと3人くらいライセンス保持者がこのまちにいるが、40代など若い方は自分の生活があるため、ボランティアではできない。少なくとも持ち出しにはならないようにしたい。縄手先生の絵画教室も市内外問わず始まる。横展開がたくさんできる。キッズクッキングも始まる。
委員	子育て支援課が行っているようなものか。
委員長	子ども食堂という概念をやめる。みんなで集まって、みんなで作る場を設けたい。作ったものを自然にみんなが食べるという発想。

委員	入りやすくなるね。
委員長	あの子は子ども食堂に行っているというのをやめたい。誰でもここにいるよと。親が作ったものでも、シェフが作ったものでもなくて、自分で作る。指導するシェフは、山口や福岡で長い間子どもに教えた経験がある人である。市内在住の方。具体的な話になってしまったが、文化に対する皆さんの思いを聞きたい。
班長	文化がなかなか思うように広がらないというところかというと、若者は、吹奏楽にしても絵画にしても自分がやるのは好きだが、プロの芸術に触れたいと思っているとか他人に広めたいと思っているかどうかということそこは正直少ないと思う。やっていて楽しいと思っている子どもの時期にプロのものに触れたりして、すごい世界があるというのを広めるような機会を作ってあげて、自分が好きなものを他人が楽しそうにやると嬉しいなと思えたり、そういう時間がかかるし地道なところを大人が作る必要があると思う。
委員長	シンプルな例題でいうと、CDディスクがハリウッドに輸出される。ディスク1枚1円でも、ハリウッドでそのディスクに音楽が入ったり映画が入ると2,000円になる。この付加価値の違い。ここは産業生産物であるが、これがアートになると2,000倍の付加価値となる。これがいきなり絵画を入れるとか音楽入れるとはできない。長い間をかけた教育があるからできる。もう一つの例題で、カネボウという会社がある。最初は糸を作り、それから布を作りだした。次に靴下を作り、ウウェアを作り出した。だんだん素材から末端に近づいてきてデパートに自分のコーナーを持ちだした。そこで気がついたのは、企業には物と販路の2つあるが、物を持っていた所が、販路が末端に近づいてきて今度は物を変えようと化粧品に変わった。それがものすごい利益になった。いわゆる糸編から比べると、こちらの方が芸術性は高い。付加価値が高いという経験値を日本人は知っている。そういうことができる教育環境が必要。
委員	小さい時に本物の芸術に触れることは必要。今行っているアウトリーチ事業というのは、今後そういう一流の芸術作品に触れることが重要になってくる。ここでは美術館がないから難しいが、東京の方では、一流の美術館で小学生が陣取って床に座って絵を模写している。そういうのは非常に恵まれた環境と思うが、それに変わるようなものを我々が子ども達に与えていけないといけないと思う。子どもの時の目を育てる教育が必要。

委員長	<p>現在吹奏楽を教えているが、高学年になると自由度が増してくる。才能がある子は、演奏中に自ら遊び感覚で何種類も音色を変えだす。どの音がふさわしいか自分で導きだす。ここまできると、この子はものすごく伸びる。ここまでもっていくのが我々の役目である。</p>
委員	<p>芸術や文化と教育は離れていく時代がきたのではないか。日本の文明というか、教育という一本筋が通っていてそこから派生していたものが、少し離れていきつつある。子どもの才能が開花した時にそれを捕まえる手立てを持つような指導者であるとか、それを拾っていく方法が必要である。教育の中での学校の先生や部活動の顧問ということではなく、いろんな人が携わっていき、教育ではない部分で子どもの才能を伸ばし、そこまでいかない子ども達には、やっているものを好きにさせるという時代になってきている。</p>
委員長	<p>プラットフォームの重要性はそこにある。そういう人材はいる。そこに場を設ければ、才能がある子が増える。こういう問題は日本だけではない。エール大学は、一流のコンサートに教授が生徒を連れて行く。年間約40回、4年間で160回。知らず知らずのうちに本物を聞いていくと、すごい財産で世の中に出ていく。この経験があるかないかでもものすごく変わってくる。一流大学を出た人達はそこが違う。教育に両面交互通行がない。そういうものが行われるプラットフォームが必要。</p>
委員	<p>学校でも、美術や音楽等専門的な先生に来ていただくのが大事。うちは小・中一貫校のため、中学校の先生に小学生の音楽を教えてもらっているが、小学校の先生が通常教えるのと、音楽の先生が音楽を教えるのでは、全然違う。</p>
委員長	<p>授業で楽譜をカタカナで書くのはやめた方が良い。あれはどこかでやめないと。中学校の先生はそのようなことはない。</p>
委員	<p>そのようなことを小さい頃から経験させることが必要。小さい頃に専門家に教えてもらえる機会があれば、何の問題もなくやれる。そういう世界が学校の中にも出てくると、今後部活がなくなる分、いろんな人に楽器を弾く楽しさを教えることができる。</p>
委員長	<p>子ども達にウソを教えるはいけない。楽譜は高さと言語が一緒になっている。カタカナは高さのみ。我々は文化によるまちづくり推進委員である。私の個人的な哲学として、まちの財産は子どもである。子ども達に</p>

	焦点を当てた施策が必要。
委員	もっと教育費に予算をまわしてほしい。
委員	若手支援の芸術家の活動支援とあるが、市の出身や市内在住の対象者を市では把握しているのか。
事務局	把握していない。文化協会の組織しかわからないため、文化協会が高齢化となると、全くわからない。
委員長	そういう目で見ると結構いて、縄手先生は立派な芸術家。あとはガラス作家。今後富山から徐々に移住してくる予定。すでに中堅で活躍している方々。例えば、スポーツも意外にいる。
班長	当面は、ガラス作家がどういう方なのか見極めながら、現在の文化芸術の先頭をいっているところなので、そこを手厚くするのが必要。
委員長	縄手先生の絵画教室に期待している。そこから相当な人数が育つ。また、このまちの出身者で、ロサンゼルスで活躍されているアートデザイナーもいる。こういう人達を市民文化祭等でフューチャリングする。もう一つキーワードで「憧れ」が欲しい。子ども達に憧れを持ってほしい。
委員	文化芸術は難しい。スポーツでいうと、例えばサッカーだと目の前でボールの足さばきを見るとすごいとなる。そういう機会を見せることが大事である。
委員長	小学6年生が竹取物語を見たと思うが、ハイジという人は落語家としてすごい。2カ月に1回ライブハウスで三題噺を披露するが、お客が出したお題を3つ選んで、即興で行う。感動ものである。人材がいないわけではない。平等と憧れが上手くミックスされると良い。子ども達の努力が報われるような環境が必要である。大人が守ってあげて、育ててあげる。
班長	予算が伴ってくるので、なかなか難しい。まずは何がやりたいかという判断ができるベース作りが必要である。教育以外の部分で、まち全体としてサポートができれば1番良い。文化芸術のすべてを多角的にやるのは予算的にも厳しいため、市として特化したものを絞ってやっていくことが現実的にも予算的にも必要となる。

委員長	塩田委員に質問だが、お互い長い期間委員をやっている身として、自分は委員会が成長していると感じるが、塩田委員はどう思われるか。
委員	委員会としてはかなり成長している。ビジョンにしても、前期行動計画にしても、委員の声はかなり反映されている。
委員長	同意見である。せっかくなので、今後も広めていってほしい。
委員	今後も期待大である。
委員長	事務局も充実してきている。
委員	今後も前進してほしい。
事務局	こういうビジョンや計画があるため、それに沿った行動をやるべきだと思っている。このあたりの御意見も今後いただきたい。
～終了～	